

# とにかく5年頑張ろう！ 仲間と共に歩んだ26年

● はじまり



メインイベント  
『豚のロデオ』



昭和初期、南予の貿易港として栄えた我が町も、紡績会社の撤退や産業の衰退などで町は過疎化が進み盆踊り大会も中止に追い込まれた。そんな折、「夏に何もないのは寂しいから花火でも上げて景気良く行こう！」と、商工会役員有志の方々の声かけで、昭和58年、今から26年前に三瓶町夏祭りがスタートした。

1回目から私も青年部員として当日だけお手伝いをしていたが、花火の他に何か出来ないか。そう思い始め、当日だけ手伝うのではなく、

企画立案から自分たちでやろう！と、町の若者達に参加を呼びかけ、昭和62年に夏祭りをお手伝いする団体「イベント実行委員会」を立ち上げた。

当時、国道も鉄道も無い我が町が、少ない予算の中でどうすれば目立てるのか？少しでも町のPRになるように、現状を逆手に取って産業に密着したイベント、なお且つオンリーワンイベントを目指し『奥地の海のかーにはる』は発進した。

## ● イベントと地場産業との関係

イベント実行委員会で動き始めた夏祭りだが、順風万帆とは行かず、色々な苦勞があった。寄付集めの大変さは分かっていたものの、イベントを行うにあたり地場産業の業者の方々に理解していただくために、何度も足を運び話を聞くと、我々の知らない事が多々あった。

今や、三瓶町の夏祭りのメインイベント『豚のロデオ』には欠かせない豚。三

瓶町は県内でも有数の養豚の盛んな地域である。養豚業者は、生産から出荷まで豚舎の中でローテーションを組んで豚を育てている。そのため、



海に面した会場。  
暑い一日がはじまります。

通常100kg位で出荷する豚をイベントのためだけに10頭残し、130kg位まで大きく育てる。別に育てる場所もない。次のグループと一緒にすると喧嘩して他の豚も育たない。しかし、そんな状況にあるにもかかわらず、「夏祭りのためなら」と、無理をして特別に大きく育ててくれている。「ヒラメのつかみどり」の魚にしても、漁協の協力で特別に安価で提供して頂くなど、地元業者の皆様には無理なお願



みかめイベント実行委員会  
委員長

前田 剛志

この『奥地の海のかーにばる』は、平成20年度第13回ふるさとイベント大賞において奨励賞を受賞した。様々な地域資源をうまく活用することや、他にはないオンラインワンのイベントが評価された。報

● 受賞の裏側にあるもの

いを叶えていただいている。三瓶町の夏祭りは地元業者なしでは開催できないほど、地域産業に密着している。



成人女性の部は、魚取り放題



大きな魚ゲット!



子どもに大人気♪ヒラメのつかみどり



『人間カーリング』  
海に向かって一直線



『人間カーリング』  
すれすれ…かなり怖い…らしい

道関係の皆様にもユニークなイベントとして、度々取り上げて頂き、おかげで年々来場者も増えつつある。今では、帰省客も正月より多くなった。毎年8月13日に開催していることもあり、県内外の観光客の方にもこの日は『三瓶の夏祭り』として定着した感がある。

企画・準備・実行・後片付け。最初は5年が目標だった。10年続けば万々歳と思っていたが、何と今年で27回目を迎えることとなった。こうして長年継続できたのは、各種団体の方々や町民の皆様

① イベントに参加するため、遠い町から来ていただいているにも関わらず、抽選に外れた方々にも満足して帰っていただくにはどうするべきか? どう改善していくか?

② 夏祭りを楽しみに多くの方が三瓶町にやってくる。祭りを活用して町の活性化に繋げることはできないか?

③ まちづくりに対する市民の意識改革と奇抜なアイデアで、夏祭りを通して産業振興に繋げていくためには?

課題はまだ多い。『継続は力なり』というものの、微力ながら我々が今後進化し続けるためには…三馬鹿トリオが老体にムチ打って桃源郷を目指し、8月13日の来客者が三瓶の人口の倍になるよう努力していきたいと思っ

● これから…

理解と協力があったことだが、共に建設業を営む副委員長2人の存在がとても大きい。予算の節約や安全な運営をするため、自分たちの会社の機械や資材を無償で持ち出してくれるなど、目に見えない所で支えてくれている。本当に大きな力だ。

今では実行委員会も、若い頭脳と斬新なアイデアと行動力でイベントを行ってくれる高校生から、70、80歳の人生の先輩までイベントに関わり運営している。古きを知り新しきを知る。『奥地の海のかーにばる』も少しずつ進化している。